

農推第2439号
令和5年10月31日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第1号

病害虫名 : トマトキバガ (*Tuta absoluta* (Meyrick))

1 確認方法 : フェロモントラップによる誘殺

2 確認地域 : 府内複数箇所

3 発見の経緯

(1) 令和5年10月5日、羽曳野市に設置しているトマトキバガ侵入警戒調査用フェロモントラップに疑義成虫が誘殺されたのを確認(図1)した。

(2) 農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、10月20日にトマトキバガであることが確認された。

(3) 初発見以降、同トラップには10月10日に2頭、同12日に1頭が誘殺され、いずれも神戸植物防疫所により同種と同定された。

また、神戸植物防疫所大阪支所が別途大阪市内2か所に設置した侵入警戒用フェロモントラップでも10月23日に計9頭の疑義成虫が誘殺され、すべて同種と同定された。

(4) 令和3年11月の熊本県での初確認以降、沖縄県から北海道までの計37道府県で誘殺が確認されている(令和5年10月30日現在)。

(5) 府内での同種の誘殺は今回が初めてである。また、現時点では農作物での発生及び被害は確認されていない。

(6) 今回、同時期に府内複数地点で多数頭の誘殺が確認されており、10月以降、近隣の兵庫県や京都府、滋賀県でもトラップでの誘殺が相次いで報告されていることから、広い範囲に多くの個体が飛来している可能性がある。ほ場での発生に十分注意が必要である。

※ (注) 本種はチョウ目キバガ科に属する微小なガである。南アメリカ原産で、2006年にスペインへの侵入が確認されて以降、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、西アジア、アラビア半島、インド、ネパール、東南アジアに分布を拡大し、令和3年5月までに台湾、中国、中央アジア諸国等の近隣地域でも発生が確認されている。

4 形態と生態、被害

(1) 形態

成虫(図2)は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)である。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一樣に淡黒褐色である。

幼虫(図3)は、終齢で約8mmである。体色は淡緑色~淡赤白色で、頭部は淡褐色、前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

(2) 生態

成虫は夜行性で、日中は葉の間等に隠れていることが多い。卵は寄主植物の葉の裏面などに産み付けられ、終齢幼虫は土中や葉の表面で蛹化する。

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。

(3) 被害

主な寄主植物はトマト・ナス・ピーマン・トウガラシ・タバコ・チョウセンアサガオなどのナス科植物であり、マメ科のインゲンマメでも確認されている。

トマトでは、幼虫が茎葉の内部に潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変する(図4)。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空くとともに、二次的に感染した病原菌により腐敗するため、品質が低下する(図5)。



図1 10月5日に誘殺された成虫



図2 成虫



図3 幼虫



図5 トマト果実の被害



図4 トマト葉の被害

※図2～5：農林水産省「植物防疫所病害虫情報 No.127」原図。無断転載を禁ずる。

5 防除方法

(1) 発生が疑われる場合は、速やかに病害虫防除グループや最寄りの農の普及課、JAに確認する。トマト、ミニトマトでは別表を参考に登録農薬を散布する。その他の作物では本虫に対する登録農薬はないが、被害を防止するため、植物防疫法第29条第1項に基づく農薬散布が認められる場合があるので関係機関に相談する。被害葉や被害果実にはほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋却するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉して寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分する。

なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(2) 施設栽培では、コナジラミ類対策も兼ねてハウスの開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを設置し、本虫の施設内への侵入を防止する。

表：トマトキバガに登録のある薬剤一覧

(令和5年10月30日現在)

薬剤名 (成分名)	系統 (IRAC)	適用作物		希釈倍数・ 使用量	使用時期/ 使用回数	使用方法
		トマト	ミニト マト			
ディアナSC (スピネトラム)	5	○	○	2,500 ~5,000 倍	収穫前日まで /2回以内	散布
ラディアントSC (スピネトラム)		○	○	2,500 ~5,000 倍	収穫前日まで /2回以内	散布
ダブルシューターSE (脂肪酸グリセリド・スピノサド)		○	○	1,000 倍	収穫前日まで /2回以内	散布
アフーム乳剤 (エマメクチン安息香酸塩)	6	○	○	2,000 倍	収穫前日まで /5回以内	散布
アグリメック (アバメクチン)		○	×	500 ~1,000 倍	収穫前日まで /3回以内	散布
エスマルクDF (BT)	11A	○	○	1,000 倍	発生初期 但し、収穫前 日まで/ー	散布
コテツフロアブル (クロルフェナピル)	13	○	○	2,000 倍	収穫前日まで /3回以内	散布
トルネードエースDF (インドキサカルブ)	22A	○	×	2,000 倍	収穫前日まで /2回以内	散布
アクセルフロアブル (メタフルミゾン)	22B	○	○	1,000 倍	収穫前日まで /3回以内	散布
ベネビアOD (シアントラニリブロール)	28	○	○	2,000 倍	収穫前日まで /3回以内	散布
ベリマークSC (シアントラニリブロール)		○	○	400株当 り25ml /10~20L 希釈	育苗期後半~ 定植当日/1 回	灌注
ブリロッソ粒剤 (シアントラニリブロール)		○	○	2g/株	育苗期後半~ 定植時/1回	株元散布
ブリロッソ粒剤オメガ (シアントラニリブロール)		○	○	2g/株	育苗期後半~ 定植時/1回	株元散布
フェニックス顆粒水和剤 (フルベンジアミド)		○	○	2,000 倍	収穫前日まで /2回以内	散布
ヨーバルフロアブル (テトラニリブロール)	30	○	○	2,500 倍	収穫前日まで /3回以内	散布
グレーシア乳剤 (フルキサメタミド)		○	○	2,000 倍	収穫前日まで /2回以内	散布
ブレオフロアブル (ピリダリル)		UN	○	○	1,000 倍	収穫前日まで /2回以内

◎防除薬剤については、使用前に登録内容を●農林水産省農薬登録情報提供システム
(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認してください。

(参考文献) 植物防疫所病害虫情報 No.127、農林水産省植物防疫所 (令和4年7月発行)

問い合わせ先：大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ
TEL: 072-957-0520 mail: byogaichu@sbox.pref.osaka.lg.jp